

「医学の本質」伝える

中原教授、後輩にエール

鹿嶋・清真学園高

鹿嶋市宮中の清真学園高(柴山修二校長)で19日、「医学とは何か」をテーマにスーパーサイエンスハイスクール(SSH)科学講演会が開かれた。1〜3年生と医学ゼミに所属する中学3年生計575人が参加。同校OBで慶応大医学部教授の中原仁さん(47)が自身の研究などについて語り「治らない病気はまだたくさんあるが、それを超越することが医学の本質」と力を込めた。



講演する慶応大医学部教授の中原仁さん＝鹿嶋市宮中

神経内科を専門とする中原さんは、大学2年生の時に見た映画「ロレンツォの患う息子」を救うため自力で

薬を開発した夫婦を描く物語で、難病治療を志すきっかけとなったという。中原さんは研究者として治療薬の開発に取り組んだが、資金面のハードルもあり研究がストップ。臨床医へ転じたものの「医学を動かす医師でありたい」との強い思いから、再び研究の道に進んだ経歴などを話した。

同大が難病治療に関する治験を行った際、多くの患者が協力を申し出たことを例に「治そうと思って頑張れば、きっと患者はついてきてくれると確信した」と、医師の意識変革の重要性を強調。「皆さんは医学の未来」と呼びかけ、目指すべき自分の在り方や10年後の姿を思い描き、そこに至るために今何をすべきか考える大切さを訴えた。

医学部志望の高校3年

生(今郡佑太さん(18)は「患者一人一人に親身に接し、絶対に自分が患者を救うという気持ちを持つ、諦めない医師になりたい」と話していた。(村田知宏)

出所：2025年6月21日(土)

茨城新聞 地域 いばらきワイド 18面